

御 殿 場 市 上 水 道 事 業
アセットマネジメント

平成 28 年 3 月



御 殿 場 市

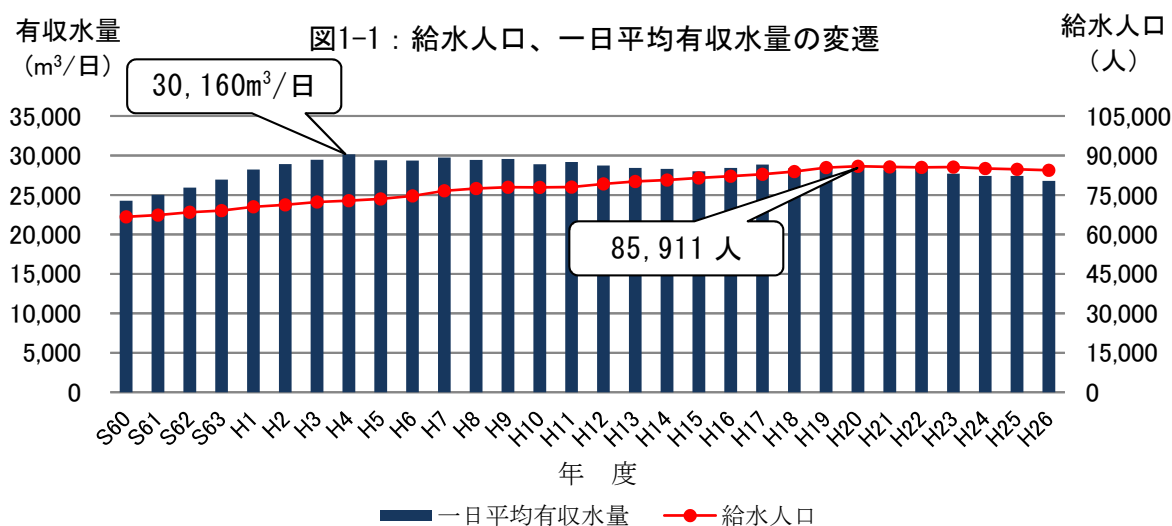
目 次

1. はじめに	3-1
2. アセットマネジメントについて	
2.1 アセットマネジメントの定義及び効果	3-2
2.2 アセットマネジメントの検討期間	3-2
2.3 アセットマネジメントの実践手法	3-3
3. 必要情報の整理及び検討手法の決定	
3.1 必要情報の収集・整理	3-5
3.2 検討手法の決定	3-8
4. ミクロマネジメントの実施	
4.1 水道施設の機能診断	3-10
4.2 水道施設の重要度に応じた耐震基準	3-13
4.3 主要な施設の重要度及び仕様	3-17
5. マクロマネジメントの実施	
5.1 資産額の変遷	3-20
5.2 資産の将来見通しの把握	3-25
5.3 更新需要の算出	3-30
5.4 長期財政収支の検討	3-48
6. 今後の課題	3-64

1. はじめに

御殿場市上水道事業は、昭和 29 年に計画給水人口 13,000 人、一日最大給水量 2,600m³として創設されて以来、平成 23 年度までに 9 回にわたって拡張及び簡易水道の統合が実施されてきた。現在は、目標平成 33 年度、計画給水人口 86,200 人、計画一日最大給水量 42,500m³/日とした、第 9 期経営変更事業（平成 23 年度）を推進している。

近年の給水人口は、平成 20 年度の 85,911 人をピークに減少傾向へと移行し、平成 26 年度実績では 84,382 人となっている。一方、一日平均有収水量は平成 4 年度にピーク値である 30,160m³/日を示し、以降は微減傾向となり平成 26 年度実績では 26,785m³/日まで減少している。



こうしたなか、本市水道事業では平成 25 年度に水道ビジョンの見直しを行い、新たな目標の実現に向けて必要な取り組みをはじめたところである。具体的には施設の耐震化事業、老朽化施設の更新事業がその中心ではあるが、迫りくる人口減少問題により給水収益の減少が今後も見込まれるなかで、年々増加が予想される更新費用の確保が課題となっている。

このため、長期的な視点に立ち効率的かつ効果的に水道施設を管理運営することが必要不可欠であり、これらを包含するアセットマネジメント（資産管理）の実践が本市水道事業にも求められている。

アセットマネジメントの実践は、中長期の更新需要と財政収支の見通しにより、施設更新とその資金確保に向けた取り組みがより明確になり、さらにこの継続的な実践により健全な水道の持続につながることとなる。